

令和元年度最高裁判所総合評価審査委員会（第5回） 議事概要

開催日及び場所	令和元年9月25日（水）～令和元年9月27日（金） ※回議により開催
委員	委員長 中城康彦（明海大学不動産学部教授） 委員 遠藤和義（工学院大学建築学部教授） 伊室亜希子（明治学院大学法学部教授） 伊藤肇（経理局営繕課首席技官） 藤田耕一郎（同 次席技官）
委員からの意見・質問及びそれに対する回答等	別添のとおり

(別添)

1 (工事) 技術提案評価型S型(WTO) 東京高地簡裁庁舎電気設備改修工事(再度)の評価項目の設定について

- (1) 工事概要について説明
- (2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【事務局】

性能機能についての評価項目は、受変電設備についての耐震性の向上に関する技術提案としたい。提案の範囲については、受変電設備は電力事業者からの電力を庁舎内に供給する役割を担っており、非常時は発電機からの電力を供給する保安上重要な設備であり、災害時にもその機能を確実に維持する必要があることから耐震性に配慮した盤等の据え付け及びケーブルの接続が重要となる。そこで受変電設備の耐震性向上に配慮し、確実に据え付けを行うための適切かつ具体的な提案を求めることとしたい。

【委員】

耐震性を求める提案であるが、大地震等で受変電設備に影響があるということか。

【事務局】

耐震性に欠けると、地震時に変圧器等の重量機器が振動で外れ停電となり、使用不可の状態となる恐れがある。

【委員】

地震で停電し、使用不可となった場合どうなるか。

【事務局】

この建物は非常用発電機を備えており、一部発電機回路を経由するものが設置されているので、更に一步踏み込んだ耐震性の向上を期待して、提案を求めることにした。

【委員】

様々な提案の提出が期待される。了解した。

【事務局】

工事全般の施工計画についてであるが、資材の搬出入や構内運搬における工事車両の通行に関する安全対策の技術的所見を求めることとしたい。多数の配電盤工事を順次更新するために、揚重を伴う搬出入が複数回必要である。公道から敷地への出入口付近や敷地内において、通行人や来庁者、職員、車両に対して事故防止に努める必要があり、工事車両の出入りや敷地内における工事車両の通行に関する安全対策について具体的な提案を求めることとしたい。過度な提案を求めているわけではなく、施工上の工夫などの提案を想定している。

【委員】

当初入札と同様な内容での提案がなされることはないか。

【事務局】

当初入札の評価項目は、「機器の搬入計画及び更新時の停電計画作成に関する技術的所見」を求めたが、今回の評価項目は安全対策が軸となる提案を求めていることから、当初入札の提案内容とは異なる着目点で提案がなされるものとする。

【委員】

公道から敷地への出入口付近は目立つ場所であるので、工事の影響を一般の人が感じないように安全対策することは、非常に大切であり、この提案項目でよろしいかと思う。

【事務局】

了解した。（議事終了）